

- 1 派遣期日 令和元年10月29日(火)
- 2 研修先 学校名 埼玉県さいたま市立大宮小学校
所在地 埼玉県さいたま市大宮区大門町3-3
omiya-e.saitama-city.ed.jp

3 研修内容

(1) 視察校における研究の取り組み

研修テーマ：自分から進んで学び、活動する児童の育成
～安心感のある学級集団づくりと協働的問題解決能力を高める授業づくり～

さいたま市立大宮小学校では、目指す児童像に「自分から進んで」「本気」を掲げ、6年間児童の自尊感情を高めることを通してそれらの児童像に迫ってきた。

自尊感情を高めて「自分から進んで」の意欲を高めるために必要な力は、協働的問題解決力である。協働的問題解決力とは、生活や学習の問題を発見して、自分の思いを表現したり友達に共感したりしながら、よりよい解決を目指す力のことである。そこで、教師と児童、児童同士の信頼関係の深まった安心感もてる学級集団において協働的問題解決力が育っていくことを念頭に、「安心感のある学級集団において、協働的問題解決力が高まれば、自尊感情が高まり、自分から進んで学び、活動する意欲が育つだろう。」という仮説を立てた。

協働的問題解決力や自尊感情の高まりは、特定の教科指導だけで育つものではなく、学校生活や各授業など教育活動全体で育っていくものである。そのため、学級集団づくりと授業づくりの両面から研究を進めていった。

① 自分から進んで・自尊感情の高まり

ア 「自分から進んで」の姿＝「本気」の姿＝「自己実現」を求める姿

イ 「自分から進んで」は「内に秘めた本気」などの表に見えやすい言動だけでなく、静かなまなざしや活動記録などにも目指す姿が表れるということ

ウ 「自尊感情」とは「自分を価値のある存在として尊重する感情」のこと

② 安心感のある学級づくり

ア 信頼関係を深めることが大切

・児童が「ありのままの自分で居られる場所だ」と感じられるような学級づくり

イ 「勇気づけの極意」・「愛・ことば」の活用

・(存在を) みとめる…「ありがとう」

・(成長を) よろこぶ…「できたね」

・(活動を) みまもる…「だいじょうぶ」

ウ 「認め合い名人」・「あいづち名人」の活用

③ 協働的問題解決力を高める授業づくり

ア 協働的問題解決力サイクル

・「課題提示→個人学習→協働→個人学習→振り返り」

イ 「大宮小授業づくりのポイント10」

④ 認め合う環境づくり

ア 認め合い名人・あいづち名人

イ 勇気づけの写真

・全教職員が「児童を勇気づける言葉」を考え、その言葉を吹き出しに書いて持ち、写真を撮ってパネルにして掲示している。



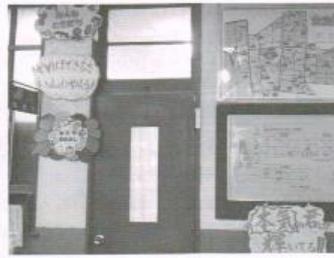
〈黒板上の掲示〉 〈階段の掲示〉

ウ きらめきメール

- ・感謝の気持ちを伝えたい児童が、相手の名前と伝えたい内容を「きらめきメール」に書いて掲示板に貼っている。



〈勇気づけの写真〉



〈きらめきメール〉

(2) 視察校における授業の実際

ア 第4学年

クラス会議 「3号車の給食が少なくなってしまうことがあるので、どうしたらいいか」給食を配るときに、いつも1号車から配っているため、3号車の給食が少なくなってしまうのでどうしたらいいか話し合いたいという議題に沿って進められた。すぐに話し合いに入るのではなく、「レインボーハッピー探し」という友達の良いところを少人数のグループで発表し合うことから始まった。「サッカーが上手だね。」「いつも授業で発表をしているね。」などをお互いに言い合うことで温かい雰囲気がつくられていた。それに対して教師が、児童が「できたこと」を実感して、達成感をもてるように「勇気づけの極意」をもとに、意味付け、価値付け、勇気づけの声かけをしていた。児童が少人数のグループで話し合い、お互いのことを認め合いながら自由に意見を出し合い、それらを比べ合うことでまとめていった。「曜日ごとに配り始める場所を変える」や「ばらばらに配る」など様々な意見が出た。

イ 第5学年

国語科 「漢字の成り立ちを探ろう」

学習課題を「たくさんの漢字の成り立ちを調べ、成り立ちを知るよさを伝えよう」としていた。協働的問題解決力サイクルである「課題提示→個人学習→協働→個人学習→振り返り」をもとに進められており、課題提示の後、漢字辞典を使って個人学習で漢字の成り立ちを調べた。その後、協働として班ごとに調べた漢字を共有し、気付いたことを話し合った。全体で気付いたことや漢字の成り立ちを知っていることよさについて話し合った。このとき、友達の発表に対して「同じです。」「良いと思います。」と口々に言ったり、拍手をしたりしていた。最後に、「漢字の成り立ちを調べると、読み方を推測できるなどのよさがある。」というまとめをした後、6年生で習う漢字を読む個人学習をし、振り返りをした。振り返りには、①学習②かかわりの2項目があり、かかわりでは、班のメンバーでやった協働のよさについて振り返り「自分一人で学習するよりも、気付くことが多かった」と振り返っていた。

4 感想

1・4・6学年のクラス会議、2・3・5学年の国語の授業を参観して気づいたことは、どの学級も児童が楽しそうに、生き生きとした表情で自分の意見を表現していたことである。児童が躊躇なく自分の意見を言い合えるのは、どの児童も「自分がどんなことを言っても受け入れてくれる」という安心感をもっているからだと考えた。今回の研修で学んだことは「楽しさ」や「満足」という感情は、「知的好奇心」や「挑戦・達成」という内発的学習意欲の現れであり、その意欲の源が「有能感」「自己決定感」「他者受容感」であるということだ。認めてくれる誰かが近くにいるということがやる気につながり、そのやる気が自尊感情になるということである。大宮小学校の授業を参観して、私の学級もこんな雰囲気にしたい、早く児童に声をかけたいという思いが高まった。今後の自分の授業づくりや学級づくりに生かしていくことは無論のこと、学校全体に広く伝えていきたい。